著者 打田十紀夫
Performed by Tokio Uchida

Kind Hearted Woman Blues
I Believe I'll Dust My Broom
Sweet Home Chicago
Ramblin' On My Mind
When You Got A Good Friend
Come On In My Kitchen
Terraplane Blues
Phonograph Blues
32-20 Blues
They're Red Hot
Dead Shrimp Blues
Cross Road Blues
Walkin' Blues
Last Fair Deal Gone Down
Preachin' Blues (Up Jumped The Devil)
If I Had Possession Over Judgement Day
Stones In My Passway
I'm A Steady Rollin' Man
From Four Until Late
Hellhound On My Trail
Little Queen Of Spades
Malted Milk
Drunken Hearted Man
Me And The Devil Blues
Stop Breakin' Down Blues
Traveling Riverside Blues
Honeymoon Blues
Love In Vain
Milkcow's Calf Blues

Rittor Music
http://www.rittor-music.co.jp/

PART 1 ロバート・ジョンソン奏法　完全分析
〜 DVDとスコアで学ぶ演奏スタイル〜

contents

DVDで完全学習
ギター・スタイル・オブ・
ロバート・ジョンソン

column

DVD contents

●ロバート・ジョンソン・スタイル基本1
親指のピッキングとミュート

●ロバート・ジョンソン・スタイル基本2
親指とメロディーのコンビネーション
練習曲「Love In Vain」

●ロバート・ジョンソン・スタイル in the Key of A
練習曲「Robert Johnson's Blues in A」

●シャッフル・ウォーキング・ベース
練習曲「Robert Johnson's Blues in E」
練習曲「Robert Johnson's Blues in D」

●ボトルネック・スライド・スタイル
練習曲「Bottleneck/Slide Blues in Open D」
練習曲「Cross Road Blues」

●ロバート・ジョンソン　ルーツと影響

＊このDVDは、演奏シーンに素早くアクセスできる"デモ演奏モード"を用意しています。
ここから、目的の曲の演奏速度（ノーマル、スロー）を選んでください。

はじめに

この度、私の教則DVD『ギター・スタイル・オブ・ロバート・ジョンソン』に新原稿を加えたものがDVD付き書籍として再発売されることになりました。思えば、本作がVHSビデオとして最初発売されたのは1995年、ちょうど20年前のことでした(2003年にDVD化)。長い間多くの方々にご愛用いただいてきた作品ですが、今回のムック化により、新しい世代の方にも楽しんでいただけそうで、私としてもとても嬉しく思います。それにしても20年前ですよ。先日ムック化された『ブルース・ギターの常套句・生！』よりもさらに若い私が見られるということです。それだけでも楽しんでいただけるのではないでしょうか(笑)。

今回の書籍化に当たり、ロバート・ジョンソンのギター・スタイルの全貌をより深く理解していただくために、彼の実際のプレイのスコアも全曲(イントロと1stヴァース)付けることになりました。私がギターを始めた頃は今のような情報がほとんどなく、苦心して見つけたLPから音を取って学ぶことが主流でした。LPからカセット・テープに音を落とし、ラジカセを何台も壊しながらコピーしたあの時代…ロバート・ジョンソンはそのギター・アプローチを解明したかったブルースマンのひとりだったのです。今回の掲載に当たっては、その頃書き溜めた楽譜をさらに注意深く見直ししています。新たに書き起こした解説やコラムも楽しんでいただけると思います。

ロバート・ジョンソンといえば、私は2011年10月にミシシッピー州グリーンウッドで開催された「生誕100周年フェスティバル」に出演いたしました。そのイベントを主催した現地のラジオ局「WABG」において、当時DJをされていた保科友美さんに推薦いただいて実現したのですが、ミシシッピー・デルタの現地の方々と交流でき、現地の空気を肌で感じることができたことは、私にとって掛け替えのない経験でした。本書では、そのミシシッピー遠征の際に撮った写真もところどころ使わせていただきました。ブルース史上燦然と輝く重要なブルースマン、ロバート・ジョンソンとの時代を超えた関わりが、本書に結び付いたことを光栄に思っています。

2015年5月　打田十紀夫

DVD
連動

ロバート・ジョンソン奏法完全分析

〜 DVDとスコアで学ぶ演奏スタイル〜

このパートは、付属の教則DVDに連動したページです。
DVDに収録した解説やデモ演奏を見ながら、
ここに掲載された楽譜を用いて、レッスンを進めてください。
五線譜の上に記した左手のコード・ダイアグラムや、
タブ譜の数字の隣に付けた右手指を表すピッキング・ラインの向き(P.5)も参考にして、
確実に学んでいきましょう。

※付属DVDの収録は1995年です。そのため、DVDの中で紹介しているCDやVHSビデオには、現在入手が難しいものもあります。

練習曲01

Love In Vain

ロバート・ジョンソンのギター・スタイルに取りかかる最初の曲として最適なのが、この「Love In Vain」でしょう。アレンジ自体がシンプルで、左手はほとんどコード・フォームを押さえたままで弾けます。

サウンドの決め手となるのは、リズムを引っ張っていく右手親指で弾くモノトニック・ベース。特にロバート・ジョンソンの場合、親指がベース弦を複音で弾くことが多く、しかもそれを手の平付け根で直後にカットすることで、“ガッ”というような歯切れの良いサウンドを生み出しています。まずは、この動きが滑らかにできるように、親指のピッキング単体で練習するといいでしょう。

Regular Tuning : EADGBE

レギュラー・チューニング：EADGBE/6→1
Key=G
「Love In Vain」Words & Music by Robert Johnson

C

G7 D7

G A7 D7

G D7

練習曲02

Robert Johnson's Blues In A

ポイント解説

曲のキーなどを示したP.29の一覧表でも分かるように、ロバート・ジョンソンがもっとも多用したキーがAでした。この練習曲は、彼のAブルースへのアプローチが把握できるようにまとめたものです。

1stセクションは、歌のバッキングとして用いたコード・ワーク。AとAdimのコードを組み合わて弾くメロディアスなフレージングは、非常に合理的で絶妙。2ndセクションは、ジョンソンが弾いた唯一のギター・ブレイクとして、「Kindhearted Woman Blues（テイク１）」の途中で登場するフレーズが基になっていますが、最初の４小節の対位法はデルタ・ブルースでは例を見ない美しいサウンドになっています。

レギュラー・チューニング：EADGBE/6→1
Key＝A

PART 2

オリジナル全29曲 完全分析

～イントロ&1stヴァースのコンプリート・スコア～

このパートでは、ロバート・ジョンソンの残した
全29曲のギター・プレイをご紹介します。
各曲とも、イントロと1stヴァースを完全コピーしてあります。
２テイクあるものは基本的にテイク１の方をセレクトしてあります
（例外の場合は、解説文に記載してあります）。
ロバート・ジョンソンの原曲を聴きながらトライしてみましょう。

ブルースでは、フルコピーをそのまま覚えて弾くのではなく、
最終的にそのアイディアを基に発展させて弾けるようになることが大切です。
ロバート・ジョンソンのプレイを掲載したこれからのページを、
そのためのプロセスとして参考にしていただけると幸いです。

ロバート・ジョンソンのギター・アプローチ

このPART 2では、ロバート・ジョンソンの実際のプレイをなるべく忠実に採譜した楽譜をもとに、彼の音楽性、ギター・テクニック、アプローチによりディープに迫りますが、まずその前に、彼の残したテイクからそのギター・スタイルの全体像を確認しておきましょう。今日聴くことのできるロバート・ジョンソンの録音は全部で42テイク。その各テイクでどのようなアプローチをしているかを右ページに一覧表としてまとめました。

用いたチューニングとプレイ・キー

当時のレコーディングでは、各曲で少なくとも2テイクは録音されたと考えられますが、曲によっては1テイクしか残っていないものもあります。また、2テイク残っている曲の中には、弾き方を変えている曲もあれば、2テイクともほぼ同じ弾き方のものもあります。やや横着ではありますが、すべてのテイクを独立したものとして捉えて、チューニングで分析してみると下記のようになります。

●レギュラー・チューニング　18テイク
（Aキー：11、Eキー：3、Gキー：2、Cキー：2）
●ドロップDチューニング　5テイク
●オープンGチューニング　15テイク
●オープンDチューニング　3テイク
●オープンDmチューニング　1テイク

もっとも多いレギュラー・チューニングで見ると、Aのキーのプレイが断トツで多く用いられています。アコースティック・ギターのプレイ、特にフィンガーピッキングにおいては、何のキーでプレイするかがサウンドの特徴を決定する非常に重要な要素です。Aキーはジョンソンが一番得意とし、そのサウンドを好んだプレイ・キーだったといえるでしょう。各テイクをよく検証してみると、同じような弾き方をしながらも微妙なマイナー・チェンジを施すなど、ジョンソンが知り尽くしたキーだったのです。

同様にオープンGも圧倒的頻度で用いられており、ジョンソンが好んだチューニングだと分かると思います。このオープンGとオープンDで弾かれた18テイクは、使用する割合こそまちまちではありますが、基本的にすべてボトルネック・スライド奏法が取り入れられています。オープン・チューニングはやはりスライド奏法のために活用したのです。

例外的なのが、「Hellhound On My Trail」で用いたオープンDm。これはスキップ・ジェイムスのサウンド・クオリティをイミテイトするためにあえて使ったと思われます。そもそもオープンDmは開放弦ではマイナー・コード・サウンドになっていますが、1～3弦と6弦の関係がレギュラー・チューニングと同じですので、ある意味レギュラー・チューニング的な感覚でも使えるチューニングです。そういった意味ではやや特殊なチューニングではあります。

様々な影響を基に作り上げたロバジョン・サウンド

オープンDmと同様に、特別な意図を持って特定のキーで弾くこともありました。詳しくは各曲の解説で触れていますが、ブラインド・ブレイク風のラグタイム・フィーリングを取り入れるためにCキーでプレイし、ロニー・ジョンソン風の洗練されたサウンドを出すためにドロップDチューニングを用いて、Dキーでプレイしています。

これらの顕著な例を含め、ギター・プレイや歌詞などロバート・ジョンソンの音楽性には多くの他のミュージシャンの影響が見受けられます。ざっと挙げても、サン・ハウス、チャーリー・パットン、ウィリー・ブラウンのデルタ三大巨人にはじまり、ロニー・ジョンソン、スクラッパー・ブラックウェル、トミー・ジョンソン、イシュマン・ブレイシー、ブラインド・ブレイク、スキップ・ジェイムス、ピーティー・ウィートストロー、ミシシッピー・シークス、ジョニー・テンプル、ハンボーン・ウィリー・ニューバーン、ヘンリー・トーマス、ココモ・アーノルド、ピアニストでもリロイ・カー、ルーズベルト・サイクス…などなど、ずらずら名前が出てきます。

重要なのは、誰のどの音楽にインスパイアされたものであっても、そのサウンドは紛れもなく“ロバート・ジョンソン”であることです。“悪魔に魂を売って手に入れたテクニック”は、実は幅広い音楽から学び吸収する能力と、それを自分の中で昇華させ自分のフィルターを通して“オリジナル”として作り上げることができた能力から生まれたといえましょう。

開放弦からのピッチ差について

右のリストにある「開放弦からのピッチ差」は、ロバート・ジョンソンのCDの音源が、コンサート・ピッチ（A=440Hz）に正確に合わせたギターでカポタストを付けないで弾いた場合と、どれだけ音程差があるかを表しています。半音を“1”としていますのでカポの位置と考えることもできるのですが、実際には半音のさらに半分（0.5で表記）、あるいはそれより微妙にずれている場合（微妙に高い場合は(+)、低い場合は(-)が付けてあります）もありますので、「開放弦からのピッチ差」という表現にしました。

演奏時のジョンソンのチューニングが、ぴったりコンサート・ピッチに合わされていたかどうかにもよりますし、あるいはオープン・チューニングの場合でも弦のテンションを考慮してオープンGならG$^{\#}$あるいはAに上げて合わせることもあり得ますので、この本ではあえて「カポの位置」とはしませんでした。もうひとつ、ピッチのズレに関しては、当時の録音機器の回転速度の不正確さ、そして再生機器との回転速度の不一致によるところもあります。

この点に関しては「戦前ブルース音源研究所」を主宰する友人の菊地明氏がかなり突っ込んだ興味深い検証を行っております（P.75のコラム参照）。

★ロバート・ジョンソンの全42テイクのチューニング＆プレイ・キー＆ピッチ一覧

録音順	曲名	チューニング(プレイ・キー)	開放弦からのピッチ差
●1936年11月23日　テキサス州サンアントニオ(録音場所：ガンター・ホテル)			
01	Kindhearted Woman Blues（テイク1）	Regular（A）	1.5
02	Kindhearted Woman Blues（テイク2）	Regular（A）	1（−）
03	I Believe I'll Dust My Broom	Drop D（D）	2（−）
04	Sweet Home Chicago	Regular（E）	1.5
05	Ramblin' On My Mind（テイク1）	Open D（D）	3.5
06	Ramblin' On My Mind（テイク2）	Open D（D）	3
07	When You Got A Good Friend（テイク1）	Regular（E）	1.5
08	When You Got A Good Friend（テイク2）	Regular（E）	1
09	Come On In My Kitchen（テイク1）	Open G（G）	3.5
10	Come On In My Kitchen（テイク2）	Open G（G）	3.5
11	Terraplane Blues	Open G（G）	3.5
12	Phonograph Blues（テイク1）	Regular（A）	1.5
13	Phonograph Blues（テイク2）	Drop D（D）	1
●1936年11月26日　テキサス州サンアントニオ(録音場所：ガンター・ホテル)			
14	32-20 Blues	Regular（A）	0（−）
●1936年11月27日　テキサス州サンアントニオ(録音場所：ガンター・ホテル)			
15	They're Red Hot	Regular（C）	0
16	Dead Shrimp Blues	Regular（A）	1.5
17	Cross Road Blues（テイク1）	Open G（G）	3.5
18	Cross Road Blues（テイク2）	Open G（G）	3.5
19	Walking Blues	Open G（G）	3.5
20	Last Fair Deal Gone Down	Open G（G）	2（+）
21	Preaching Blues (Up Jumped The Devil)	Open D（D）	2
22	If I Had Possession Over Judgment Day	Open G（G）	2.5
●1937年6月19日　テキサス州ダラス(録音場所：ARCのレコード保管倉庫)			
23	Stones In My Passway	Open G（G）	2
24	I'm A Steady Rollin' Man	Regular（A）	0（+）
25	From Four Till Late	Regular（C）	0（+）
●1937年6月20日　テキサス州ダラス(録音場所：ARCのレコード保管倉庫)			
26	Hellhound On My Trail	Open Dm（D）	2.5
27	Little Queen Of Spades（テイク1）	Regular（A）	1（−）
28	Little Queen Of Spades（テイク2）	Regular（A）	1（−）
29	Malted Milk	Drop D（D）	1
30	Drunken Hearted Man（テイク1）	Drop D（D）	1
31	Drunken Hearted Man（テイク2）	Drop D（D）	1
32	Me And The Devil Blues（テイク1）	Regular（A）	1（−）
33	Me And The Devil Blues（テイク2）	Regular（A）	1（−）
34	Stop Breakin' Down Blues（テイク1）	Open G（G）	3（−）
35	Stop Breakin' Down Blues（テイク2）	Open G（G）	3（−）
36	Traveling Riverside Blues（テイク1）	Open G（G）	3（−）
37	Traveling Riverside Blues（テイク2）	Open G（G）	3（−）
38	Honeymoon Blues	Regular（A）	1
39	Love In Vain（テイク1）	Regular（G）	1（−）
40	Love In Vain（テイク2）	Regular（G）	1（−）
41	Milkcow's Calf Blues（テイク1）	Open G（G）	3
42	Milkcow's Calf Blues（テイク2）	Open G（G）	3

NO.12 Cross Road Blues

クロスロード・ブルース

Song History

「十字路で悪魔と取引をし、魂を担保にギターの腕前を手に入れた」というセンセーショナルなロバート・ジョンソンのクロスロード伝説は、映画の題材にもなったほどです。エリック・クラプトンがクリーム時代にバンド・アレンジでこの曲をカバーしたことからも、今日ではジョンソンの作品の中でもっとも有名曲となったナンバーでしょう。クラプトン以降も、今日まで多くのロック・アーティスト、アコースティック・ブルースマンにカバーされてきています。

PART 1のDVD連動ページでも取り上げたオープンGチューニングを用いたボトルネック・スライド・ナンバー。同じくオープンGを用いたスライドの代表曲「Terraplane Blues」のパターンとは、やや趣を異にする独特のアレンジになっています。小節数や拍数なども例によって不定型ですが、ジョンソンのオリジナル演奏を聴いてもらうと分かるように、歌とギターが絶妙に絡み合うことで、全くもって違和感なく自然に聴こえます。

オープンGチューニング：DGDGBD/6→1
Key＝G
「Cross Road Blues」Words & Music by Robert Johnson

G7

C7

G

(D)

ロバート・ジョンソンは本当に十字路で悪魔と取引したのか

“夜中の12時少し前、人影のない十字路で悪魔と取引をして、その卓越したギターの腕前を手に入れた”…まことしやかに語り継がれるロバート・ジョンソンのこのクロスロード伝説は、彼の神がかったギター・プレイを聴くにつけ、我々の妄想を膨らませてくれます。

ただ、悪魔を肩書きに使ったブルースマンは、ロバート・ジョンソンだけではなかったようです。“悪魔の義理の息子”あるいは“地獄の保安官”の異名を取ったピーティー・ウィートストローもそんなひとりでした。セントルイスを中心に1930年代に活躍したピーティーは、合計161曲にも及ぶ録音を残し、ジョンソン以前にすでにブルース・シーンで絶大な人気を誇った大物でした。ジョンソンが悪魔との関わりを売りにしたのも、このピーティーをお手本にしたのではないかと言われます。ピアノがメインだったピーティーですが、ギターも弾き、そのオープンGにおける押弦コード・アプローチはジョンソンも実際に影響を受けていますので、あながちあり得ないことではないでしょう。

もうひとり、1920年代に録音を残したジャクソン・ブルースの巨人、トミー・ジョンソンも忘れてはいけません。実は、ロバート・ジョンソンよりかなり前に、“悪魔に魂を売ってギターのテクニックを手に入れた”エピソードを語っていたと、彼の兄弟が証言しています。あちゃー、まったくもってドンピシャじゃないですか！ 当時は当然のことながら今のような情報化社会ではありませんので、人のネタを多少拝借してもそうそうばれることもないでしょうし、文句を言う人もいないでしょう。ちなみに、ロバート・ジョンソンのファルセット唱法もトミーの影響だと思われます。

人気商売である以上、売りになるエピソードは確かに重要です。かのスタン・ハンセンも、単にボディスラムをかけ損なってブルーノ・サンマルチノの首にケガをさせてしまったのに、“ウェスタン・ラリアットで首を折った”と勲章にしてからブレイクしましたからねえ。え？ 全然関係ないですか？ うーん、ちょっと違いますかね(笑)。

DVDで完全学習
ギター・スタイル・オブ・ロバート・ジョンソン

2015年6月1日　第1版1刷発行
定価(本体2,500円+税)
ISBN978-4-8456-2600-7

●著者
打田十紀夫

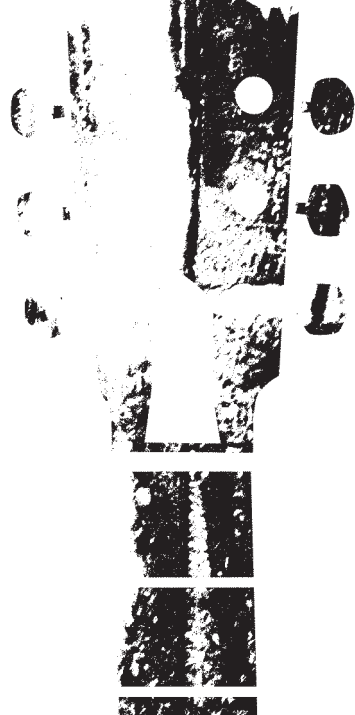
●発行所
株式会社リットーミュージック
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
神保町三井ビルディング
[ホームページ] http://www.rittor-music.co.jp/
[お客様窓口]
カスタマーセンター
(商品に関するお問い合わせ)
TEL：03-6837-5017 ／ FAX：03-6837-5023
E-mail：info@rittor-music.co.jp

【書店・取次様窓口】出版営業部
TEL：03-6837-5013 / FAX：03-6837-5024
●発行人
古森優
●編集人
松本大輔
●編集長
小早川実穂子
●編集
額賀正幸
●デザイン
柴垣昌寛
●DTP
エルグ
●イラスト
thin elephant（アラタクミコ）http://thinelephant.com
●印刷／製本
共同印刷株式会社

RITTOR MUSIC
JUNE 2015
PRINTED IN JAPAN

※付録のDVDは、教則ビデオ／ DVDとして発売されていた『ギター・スタイル・オブ・ロバートジョンソン』の映像を使用しています。
※分売不可。

■ DVD ビデオ　使用上のご注意
本書付録の DVD は, DVD ビデオです。DVD ビデオは, 映像と音声を高密度で記録したディスクです。DVD ビデオ対応プレーヤーで再生して下さい。DVD 再生機能を持ったパソコンやゲーム機など，一部の機種では再生できない場合があります。不都合が生じた場合, 弊社では動作保証の責任を負いませんので，あらかじめご了承下さい。詳しい再生上の取り扱いについては, ご使用のプレーヤーの取扱説明書をご覧下さい。

■ DVD ビデオ　保管上のご注意
ディスクは，両面とも指紋，汚れ，傷などをつけないように取り扱って下さい。またディスクに大きな負担がかかると，データの読み取りに支障をきたす場合がありますのでご注意下さい。
使用後は，必ずプレーヤーから取り出し，専用のケースなどに収めて保管して下さい。直射日光の当たる場所や高温，多湿の場所には保管しないで下さい。

ISBN 978-4-8456-2600-7
C3073 ￥2500E

RittorMusic
定価（本体2,500円＋税）★★
http://www.rittor-music.co.jp

contents

PART 1
DVD連動
ロバート・ジョンソン奏法　完全分析
～DVDとスコアで学ぶ演奏スタイル～

PART 2
スコア
オリジナル全29曲　完全分析
～イントロ&1stヴァースのコンプリート・スコア～